



組織を超えた連携で町民の健康を守ってきた医療チーム



長期的な支援活動を行うボランティアの皆さん

い医療基盤の機能までも奪い  
た。震災直後、国道や町道など  
たるところでがれきが道をふさ  
いでいました。そのため、けが  
人の搬送や物資の流通が困難な  
状態でした。町が山道に待機さ  
せていた豊間根地区の建設業者  
は、津波警報が解除されると重  
機で道を切り開いていき、崩落  
した道路には迂回路を作りまし  
た。このため、けが人などの搬  
送時間は大幅に短縮されました。  
生きていく上で不可欠な水の  
供給は、水道施設の被災により

途絶えていました。そのため県  
内市町村をはじめ、長野県、京  
都府、大阪府、兵庫県、秋田県  
の市町村職員が給水車で給水を  
行いました。また、水道は、3  
月20日に山田地区の一部で通水  
し、水道工事業者の夜を徹した  
復旧作業と県内外の自治体の応  
援により5月上旬にはほぼ復旧  
しました。

手当てを必要とするけが人が  
多数いる中、病院や診療所の多  
くが津波の被害を受けました。  
この危機的な状況で、町内診療  
所の医師らは、震災直後から山

田南小学校避難所で薬剤師や看  
護師、事務スタッフとともに救  
護所を立ち上げ、不眠不休でけ  
が人などの手当てに奮闘しまし  
た。その後、全国各地からたく  
さんの医療チームが続々と集ま  
り、同避難所のほか県立山田高  
校などを拠点として、各避難所  
の救護活動を行いました。

多い日で300人以上となりま  
した。また、交代でボランティア  
に参加し、長期的な支援をし  
てくれる自治体や企業などもあ  
ります。

作業内容は▼土砂の撤去▼写  
真の洗浄▼家具の移動、畳上げ  
▼掃除、食器等の洗浄▼避難  
所・炊き出し補助——など。特  
に、がれきや土砂が流入した家  
の片付けでは、泥水を吸って重  
くなった畳や軒下にたまった土  
砂なども「せーのっ」と声を合  
わせて運び出すなど、作業に汗  
を流します。

## ボランティアセンター 集まる全国からの善意

震災直後から、被災した住民  
の力になりたいと、たくさんの  
皆さんが支援のため町内で活動  
してきました。

4月9日には、山田町B&G  
海洋センター体育館を拠点とし  
て、山田町災害ボランティアセ  
ンターが開設。山田町社会福祉  
協議会とNPO法人「大雪り  
ばあねつと」が中心となり運営  
に当たっています。

センターでは、ボランティア  
が円滑に作業できるように手助  
けを必要とする人とのマッチン  
グ作業を行っています。ボラン  
ティアは全国各地から集まり、

また、思い出のつまつた貴重  
な写真の洗浄作業も仕事の一つ。  
流出したのがれきの中から見つ  
かった写真やアルバムを、ボラ  
ンティアの皆さんはていねいに  
ハケで汚れを落とし、きれいな  
水でやわらかく洗浄。そして、  
直接日光に当たらない場所で保  
存します。ボランティアさんが  
きれいにし、持ち主へと戻った  
大切な写真は、これまでで数千  
枚にものぼります。

ボランティアの皆さんが各分  
野で力を発揮し、沈んでいた気  
持ちを少しずつ希望のあるもの  
へと変えてくれました。被災か  
ら復旧・復興へ向け、町民自身  
の力はもちろんのこと、たくさ  
んの方々の支援が、最初の一步  
を踏み出す力となっています。



①



②



③



④



⑤



⑥

①人力車に乗り、喜ぶ子供たち（5月5日）②大浦出身の小林すずさんが所属するわらび座が大浦小で公演（7月30日）③熱い応援ソングにみんな勇気づけられたファンキーモンキーベイビーズのライブ（6月19日）④保健センターで行われた航空自衛隊の演奏会（5月27日）⑤柳沢地区国道沿いに建てられた感謝を伝える看板⑥大沢小で笑顔を見せるラサール石井さんと子供たち（4月11日）⑦みんなを笑顔にさせた山田邦子さんの訪問（5月26日）⑧御蔵山で開かれたさだまさしさんのコンサートに涙と笑顔があふれた（8月17日）



⑦



⑧